

「学校生活に関するアンケート（アセス）」結果と学校の取組について（報告）

1 実施時期 平成30年6月

2 対象者数

		児童生徒在籍数	実施数	実施率
小学校	3年	2,431人	2,417人	99.4%
	4年	2,396人	2,386人	99.6%
	5年	2,441人	2,427人	99.4%
	6年	2,410人	2,393人	99.3%
中学校	1年	2,305人	2,281人	99.0%
	2年	2,292人	2,245人	97.9%
	3年	2,452人	2,389人	97.4%
計		16,727人	16,538人	99.0%

3 「学校生活に関するアンケート(アセス)」実施後の対応について

	事後対応の内容	小学校	中学校
①	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて学年で情報共有できている	100%	100%
②	学級内分布票から判る支援の必要な子どもについて個別支援をしている	96%	100%

※個別支援未実施校…小1校→アセス結果を共有したのが夏季休業中であつたので、個別対応については、2学期から実施する予定(8月末調査時点)

4 支援の必要な子どもへの具体的ななかかわり事例

- グループ活動(ピア・サポート)を教育活動に積極的に取り入れ、友だちとのかかわりの場面を多くもつことができるようにしている。その後、活動の振り返りを行う中で、態度面についてお互いに認め合えるように教員の関わり方を工夫している。
- 複数の教員(担任、管理職、養護、児童支援担当、専科、生徒指導担当)で情報を共有している。個別の教育相談だけでなく、普段からみんなで関わるということを大切にしている。
- 心の相談アンケートの結果も踏まえて総合的に子どもの状態を見ている。
- 専門機関に対応の仕方についてアドバイスをもらい、ケース会議を開いて対応方法を共有している。

5 「学校生活に関するアンケート(アセス)」の活用についての聞き取り結果から(工夫・成果・課題)

- 個人のアセス結果を個別のファイルに綴り、経年で比較検討しているようにしている。年度が替わり急激な落ち込みがあるような子どもをチェックし、いじめ対策委員会等で検討し、複数の目で見守り関わるができるようにしている。
- アセスの結果をもとに今後どんな関わりをしていくかを口頭確認ではなく、目標として明文化した個人カルテを共有し取組に生かしている。
- 普段の生活の様子から見立てからは、思いもよらなかった子どもが要支援レベル①にプロットされていたことで驚きもあったが、その結果を受けて、より積極的に当該の子どもと関わるようにしている。
- 学校生活(学習面、対人関係面)には大きな問題があるわけではないが、生活満足感が低く、親子関係等家庭の問題に起因している場合の介入の仕方が課題。関係機関には情報提供し連携しているが…。
- 課題がみられる子どもは、「ネット依存」「ゲーム依存」という言葉がキーワードとなっている。社会問題にもなっている課題を学校の立場からどのようにアプローチができるのか大きな議論が必要ではないか。学校としても検討していきたい。